

高知大学病院：一般外科・消化器外科研修プログラム（プログラム責任者：瀬尾 智）

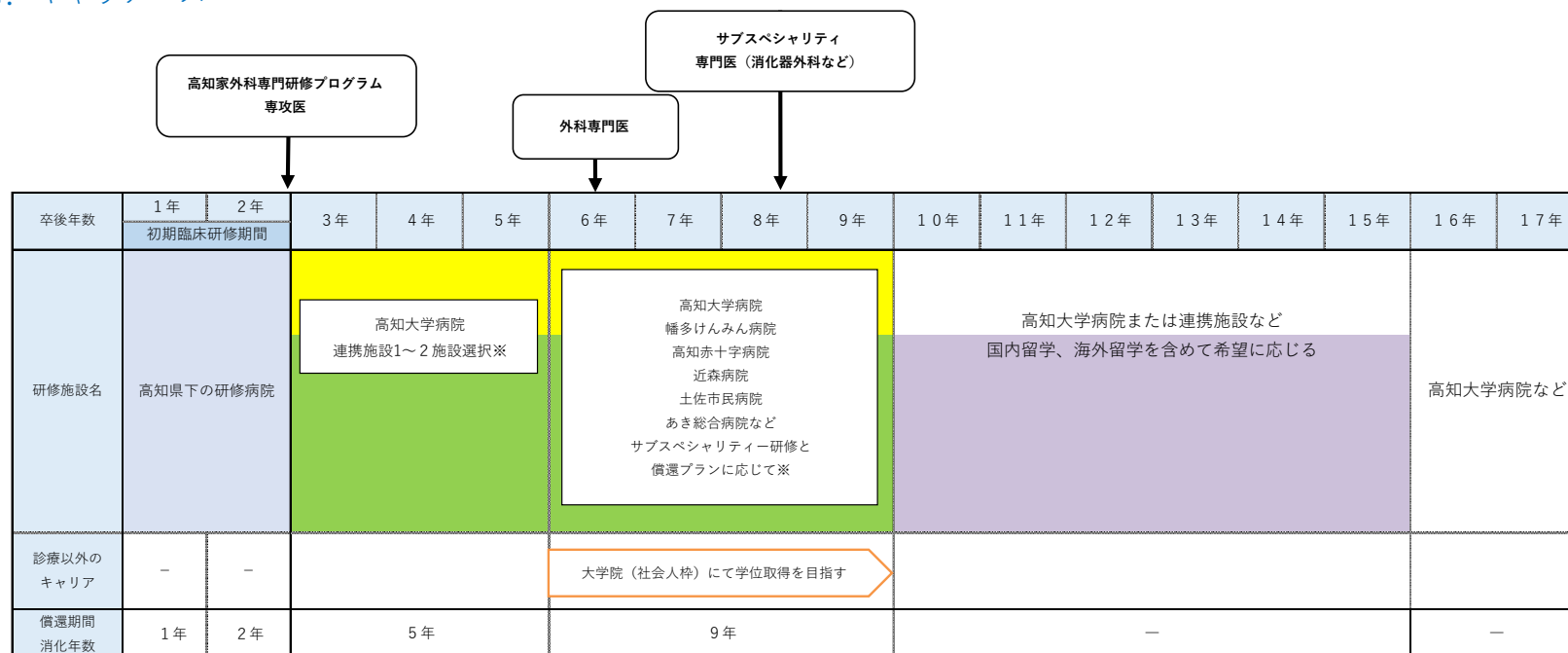
Ⅰ. プログラムの特色

一般外科・消化器外科研修プログラムは、高知県の医療を担う消化器腫瘍外科医、腹部救急外科医、地域診療を担うジェネラリスト、そして臨床と基礎とをつなぐ研究者を目指すことができる幅広い内容を有しています。外科専門医の取得を最初の目標とし、取得後はそれぞれの進路希望に配慮した研修・勤務形態を個別に立案します。

Ⅱ. 目 標

外科治療成績の向上を常に目指す医師となることを大きな目標に外科専門医の取得に向けて修練を積みまします。その後の目標は、消化器外科専門医や内視鏡外科技術認定医、Acute care surgeon、研究、地域医療などのそれぞれ分野においてプロフェッショナルであることを目指し、高知を拠点として、世界に情報発信できる人材となることを目標としています。

Ⅲ. キャリアパス



ここに記載したのは一つの例であり、高知家外科専門研修プログラム連携施設の他、国内留学、国外留学など相談に応じて、個別にキャリアパスを組む予定です。

※ 本人希望や施設における人員数に配慮しながら卒業15年までに3.5年間以上は高知市・南国市外での研修が可能となるように調整する

高知大学病院：小児外科専門医をめざして（プログラム責任者：大島雅之）

I. プログラムの特色

小児外科の特徴は新生児から思春期にいたる機能的に未熟で発達段階にある外科的疾患を扱う。特に新生児や未熟児では繊細なテクニックを必要とする。疾患のほとんどは先天性疾患であるが、その範囲は消化器、呼吸器、泌尿器、外傷、腫瘍や重症心身障害児に対する外科的サポートなど多岐にわたっている。希少疾患も多く、あらゆる疾患に対応するためには長期間の修練と経験が必要となる。地方では小児外科専門医の数が少なく、医療格差をなくすための努力が必要とされている。小児外科専門医を目指すことで地域に高度の医療を提供する。

II. 目 標

小児外科専門医は小児外科疾患に対して幅広い知識と技能が必要となり、特殊な疾患に対しては専門病院への転送などの診断と見極めも要求される。小児外科専門医取得には日本外科学会専門医取得後に小児外科認定施設での修練と決められた手術件数、学会報告、論文作成などが必要となる。指導医取得にはさらなる手術件数と論文作成が要求される。高知大学医学部附属病院は2021年1月から小児外科学会教育関連施設Bとして認定されており県内のみの研修で小児外科専門医を取得することは可能となったが、多様性のある疾患を数多く経験するにはHigh Volume Center（小児専門病院）での修練が望ましいと考える。専門病院での研修は2～3年を予定している。小児外科専門医は全国で約600名、指導医は約250名で地方では指導医が存在しない県も存在する。少子化ではあるが小児医療への関心の高まりとともに手術件数は減少しておらず、地域にとって小児外科医療は必須の診療部門である。小児外科専門医・指導医を取得することは地域の小児外科医療を支える上で非常に有益なことである。2023年度から小児外科専門医プログラムが新しくなり、初期臨床研修終了後の1年は一般外科に所属し2年目から小児外科研修プログラムに参加することとなる。

III. キャリアパス

小児外科専門研修プログラム 専攻医																		外科専門医																		小児外科専門医																	
卒後年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年																																		
	初期臨床研修期間																																																				
研修施設名	高知県下の研修病院				高知大学病院		幡多けんみん病院			高知大学病院	小児外科専門病院 (国内留学)		高知大学病院	高知大学病院など																																							
診療以外の キャリア	—	—				大学院（社会人枠）にて学位取得を目指す																																															
償還期間 消化年数	1年	2年	4年			7.5年			8年	—		9年	—																																								

※ここに記載したのは一つの例であり、高知家外科専門研修プログラム参加施設の他、国内留学、国外留学など相談に応じて、個別にキャリアパスを組む予定です。

高知大学病院：心臓血管外科修練プログラム（プログラム責任者：三浦友二郎）

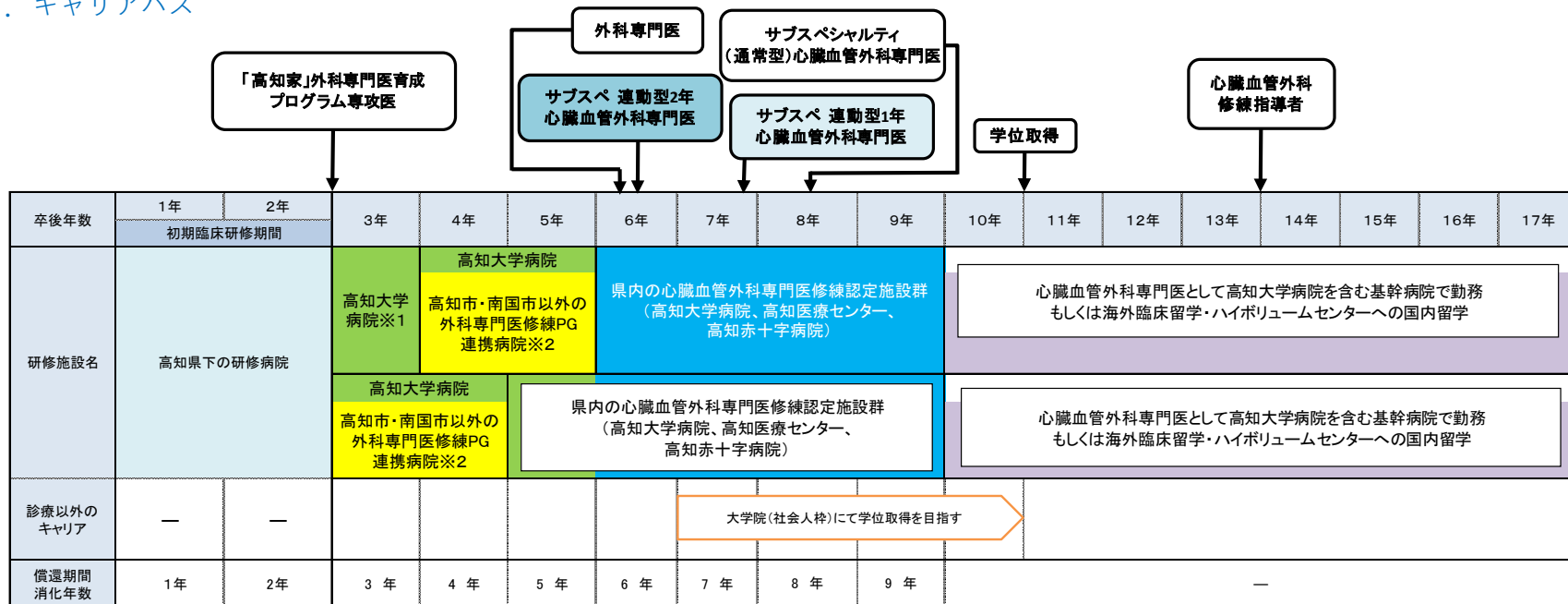
I. プログラムの特色

心臓血管外科は高い技術力を要し、新しい治療法が次々登場する進歩の早い診療科です。治療結果は患者の生命に直結するため、手術技量や周術期の高度な全身管理の知識が必要です。優れた心臓血管外科医となるためには、全身疾患を診る経験や幅広い領域の基礎的な素養が重要です。また、医師としての臨床・研究能力だけでなく、医療に携わる職業人としての責任感を重視しています。専攻医にはきめ細かいメンターによる指導の下、習得段階に応じて次のステップの臨床経験を積み、早い時期から学会・論文発表の機会が提供されます。

II. 目 標

- 外科専門医を取得後（通常型または連動型1年および2年）より、外科医としての基本的な知識、手技を習得すると共に、多様化する心臓血管外科領域の専門性の高い臨床的知識および技能の習得を目指します。
- 当プログラムは、高知大学心臓血管外科修練プログラムの修練施設群（四国内4施設、四国外8施設）がシームレスに連携して、国内外どこでも活躍できる能力の高い心臓血管外科専門医を育成することを目的としています。
- 特に低侵襲心臓・血管手術の習得に力を入れており、外科医がカテーテル治療も外科手術もどちらも選択できる『ハイブリッド外科医』の育成を掲げています。
- 医局員一人一人が国際的視野に立った臨床および研究ができるよう国内はもとより海外への学会参加や臨床留学を支援し、世界で活躍できる心臓血管外科医の育成と、地方でも世界レベルの医療が提供できることを目標としています。

III. キャリアパス



※1 希望者には県内の心臓血管外科専門医修練認定施設群（高知大学病院、高知医療センター、高知赤十字病院）での研修も可能。

※2 希望者には1～2年間、高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院での研修も可能。

高知大学病院：『高知家』外科専門研修プログラム（呼吸器外科専門医）（プログラム責任者：田村昌也）

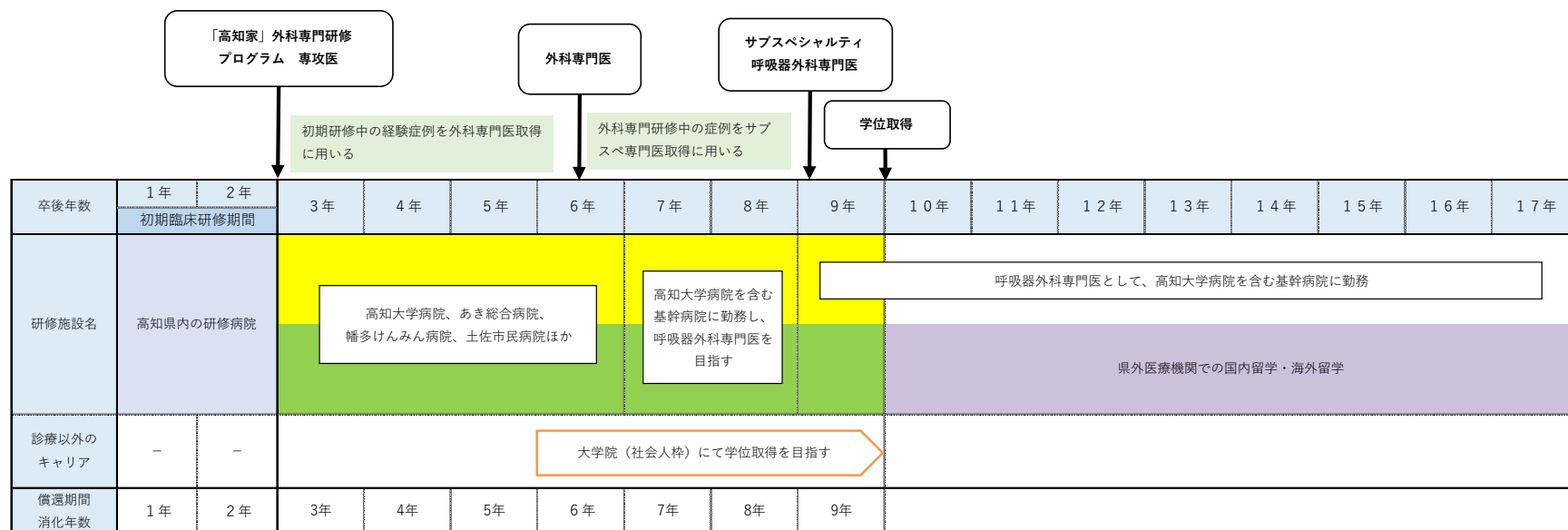
I. プログラムの特色

高齢化社会の先駆けである高知県でなければ得られない外科研修を提供するプログラムである。県下全域で『高知家』病院群を組み、一般的外科治療のみならず、高度先進医療、地域の医療までを貪欲に研修できる内容となっている。大学病院、市内および東西の中核病院を拠点としながら、近隣病院にも赴いて経験を積み、あらゆる立場の外科医を経験することによって、厚く広い外科医としての基盤を形成することを目指したプログラムである。

II. 目 標

- 外科専門医として、①小児から高齢者までをカバーし、②救急から慢性期まで対応でき、③全身管理を行うことができる外科医を育成する。
- 手技（技）はもちろんのこと、患者・家族への対応（心）、さらにリサーチマインドも持つ（体）、academic surgeonを育成する。
- 将来、外科の経験を活かして総合診療医を目指す場合にも対応できるよう、地域の外科、在宅の外科なども経験を多く積む。

III. キャリアパス



※ここに記載したのは一つの例であり、高知家外科専門研修プログラム参加施設の他、国内留学、国外留学など相談に応じて、個別にキャリアパスを組む予定です。

※本人希望や施設における人員等に配慮しながら、3.5年以上は高知市・南国市外での研修が可能となるように調整する。